

# 全大教新聞

2025年4月10日  
第430号

【発行所】  
全国大学高専教職員組合  
(略称：全大教)



【PDF版 (全面カラー)】  
[http://zendaikyō.or.jp/?page\\_id=107](http://zendaikyō.or.jp/?page_id=107)  
【電話】 03-6802-4250  
【HP】 <http://zendaikyō.or.jp/>  
【所在地】〒110-0012  
東京都台東区竜泉  
2-20-15 都築ビル 2階

\* 組合員の購読料は  
組合費に含まれて  
います (一部30円)

## 今月の紙面

2 2025年②春季・新歓期合同地区別単組  
代表者会議 (3月1日) 関東甲信越地区、  
北海道・中四国地区合同  
3 組合の大切さを伝えて加入を呼びかけよう！  
論壇「地域交通の再設計―公共交通の改善  
で地域と暮らしの持続性を高める―」  
福島大学 経済経営学類 教授 吉田 樹

4 単組からのレポート  
・ 東京大学  
「挑戦と変革のまっただ中」  
・ 京都工芸繊維大学  
「労使の円滑な意思疎通へ向けて」

## 立憲民主党 文部科学部門会議

### ヒアリング参加

3月18日

全大教中央執行委員会、京都大学職員組合



## 運営費交付金の 大幅な増額を!

立憲民主党



文部科学部門

全大教中央執行委員会と  
京都大学職員組合は合同で  
3月18日、国立大学・大  
学共同利用機関・国立高専  
の運営費交付金の大幅増額  
を求めて、立憲民主党文部  
科学部門会議のヒアリング  
に参加しました。

### 要旨

【学生の負担増加にスト  
ップを】  
東京大学で学費が値上げ  
される中、「国立大授業料1  
50万」の提唱者が中教審

委員に就き、また、修学支  
援制度の学業要件厳格化が  
議論されています。決して  
学生が裕福になつたわけ  
ではなく、学生の負担増加  
はなく経済的支援のいっそ  
うの充実をはかる必要があ  
ります。

### 【地方大学の充実を】

とりわけ地方大学におけ  
る、旧帝大との格差問題や、  
トイレの改修すらままなら  
ないという深刻な実態を共  
有しました。また、地方大  
学への支出が地方創生の理  
念にかなうということをも、  
学術研究を引いて伝えまし  
た。

【物価高や人件費増への  
対応を】  
近年の研究の高度化や、  
物価上昇、とりわけ電気代  
や輸入物価の高騰を示しま  
した。また、人事院勧告に  
給与水準を準拠させられな  
い例を伝えました。

### 【運営費交付金の大幅な 増額を】

以上の問題に対応するた  
めには、外部資金への依存  
だけでなく、運営費交付金  
の大幅増額、とくに教育研  
究を実施するにあたって最  
も基盤的な財源である「基  
幹経費」の増額が必要であ  
ることを訴えました。

(京都大学職員組合  
中央執行委員)

## 国会議員要請

250人が参加 3月5日

2025年春 3.5国会議員要請・意思統一集会



## ケア労働者の大幅賃上げと 夜勤改善の実現を求めて

医労連・自治労連・全大  
教でつくる医療三単産は3  
月5日、「ケア労働者の大幅  
賃上げと大幅増員・夜勤改  
善」を求めて、国会議員要  
請および経団連前宣伝を行  
いました。

国会議員要請の意思統一  
集会では全大教病院協議会  
の山城幹事(琉球大学病院)  
から「看護師の賃金水準が

低い状態にも関わらず人事  
院勧告水準の賃上げもまま  
ならない大学がある。退職  
者も多く出ている状態。声  
を上げて改善させたい」と  
国立大病院の現状につい  
て訴えました。意思統一集  
会には、20人を超える国会  
議員が駆けつけ、激励の挨拶  
がありました。

参加者は各議員へ要請を

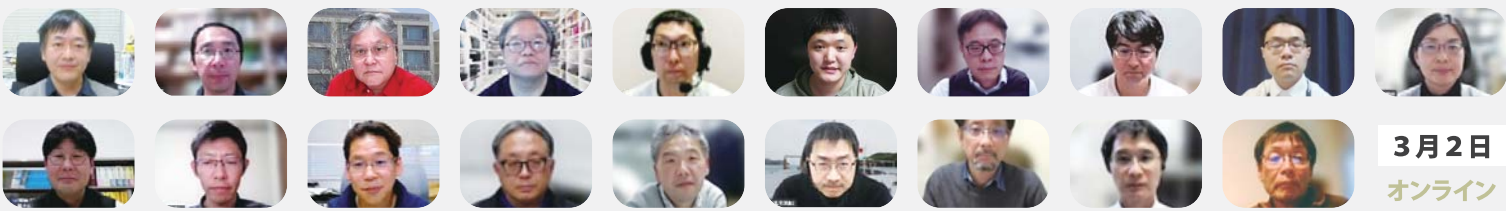
行った後、経団連会館前で  
「医療の置かれている現状」  
を訴え、「企業のみならず医  
療現場にも賃上げ可能な経  
済状況になること」を求め  
ました。

今回の要請を通じて「医  
療現場のリアルワールド」  
を世論に訴えることができ  
ました。引き続き、安全・  
安心な医療提供のためにも  
日々の組合活動を行ってい  
きたいと感じました。

(病院協議会議長  
長谷川 信)

## 高専単組代表者会議

待遇改善、働きやすい環境の整備に向けた取り組み



3月2日  
オンライン

全大教高専協議会は3月2日に、高専単組代  
表者会議をオンラインで開催しました。準加盟  
単組を含む計16単組と幹事会による活発な意見  
交換が行われました。

岡本議長の「年1回の会  
であるが、皆さまの意見は  
今後の活動・交渉へ活か  
したい」旨の挨拶に始まり、  
続いて永井全大教書記長か  
ら、「人勧準備の給与改定は  
非常に難しい情勢である  
中、幹事会の交渉により人  
勧通りとなった。」皆さま  
のご尽力により高専の評価  
は高くなっている。」と挨拶  
がありました。

議題として、団体交渉報  
告、高専機構予算説明、今  
後の協議要求事項説明、単  
組交流議題について活発な  
意見交換が行われました。  
特に給与規則改正に関する  
報告内で、教授職以上(教  
育職俸給表4級以上)の改  
定は、利益、不利益変更が  
混在する大幅改定になるこ  
とから時間を割き丁寧な説  
明が行われました。

単組交流議題の中では、各  
単組において組合組織率の  
低下に苦慮し、特に新規採  
用教職員の加入に向けた施  
策の情報交換が行われまし  
た。おおむね個別訪問での  
加入に一定の成果があり、さ

らに組合主催のイベント等  
に非組合員も参加可能にす  
る等の教職員全体を巻き込  
んでいる単組がより高い成  
果を上げている傾向が伺え  
ました。今後の組織率向上  
の光が見えた内容でした。

一方、教職員の過重労働  
やメンタルヘルスに関する  
問題では、各校事務職員に  
おいて休職者が多く、超過  
勤務時間も多いたことが報告  
されました。超勤時間チェ  
ックのため、学校から組合  
に報告をさせる単組がある  
一方、特に教員は超勤があ  
つていない学校もあること  
が分かり、各校の温度差が  
感じられました。

高専協議会幹事会として  
は、各校による温度差は良  
い取り組みをしている学校  
に寄せられるよう、各単組  
から幅広い意見を集約し、  
高専機構本部と交渉を行っ  
ていきます。今後も待遇改  
善、働きやすい環境の整備  
に向け、さらに取り組みを  
進めていきたいと思ひます。  
(高専協議会幹事  
小林 一誠)